

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	高砂市立高砂児童学園		公表日		令和 8 年 2 月 19 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	1	各保育室では、安全に過ごせるように環境を整え、全体での活動時に使うスペースも確保できています。	引き続き安全面での配慮を十分に行い、環境構成を工夫していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	3	保育士は適切に配置されており、専門職の職員も配置しています。	適切な支援が行えるよう、引き続き適切な職員配置をしていきます。現在、PT・OT・STなどの専門職の指導は、月2回実施しているため、引き続き行っていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	5	建物自体は年数が経っており、バリアフリー化はしていないが、今の建物の中で子ども達に分かりやすいように環境を整えるようにしています。	今後も安全快適に過ごすことができるように工夫し、環境整備を行っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14	1	毎日丁寧に清掃や消毒を行っています。	夏の遊びに関しては、熱中症などの対策を実施し、安全にこども達が過ごすことができるようにしていきます。また建物が古い施設になるが、清潔に保ちながら、明るい環境で過ごすことができるようにしていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	0	クラス活動を行ったり、落ち着かなかった時に使用できる部屋を用意しています。	活動内容に応じて個別の部屋を使用する際は、こどもの安全を確保しながら、安心して個別の部屋を使用できるようにしていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	1	人事評価制度やチェックリストなどで、目標設定と振り返りを行い、資質向上につなげています。	今後もそれぞれに応じた目標設定を行い、業務改善を進める為、園務分掌など全職員で考えていくようにします。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	保護者に対して評価表や行事後のアンケートなどを実施し、保護者の意見を参考にしながら次の活動につなげています。	毎年保護者の意向を把握する機会を設けており、業務改善につなげています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	職員会議、検討会議等毎週開催し、職員間で話しやすい環境を構築しており、十分に話し合いができ、一人一人が発言する機会を設けています。	今後も職員と意見交換できる場を設け、業務改善につなげていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	3	第三者による外部評価は行っていないが、学園で行った評価を行政に報告したり、オープンスクールなど外部から来ていただいた方にアンケートを実施しながら業務改善につなげている。	今後も学園運営について検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0	園内研修・外部研修にも積極的に参加し、またセンターの機能研修として、本園での研修を開催し、外部の方も参加できる研修も実施している。	今後も積極的に研修を計画・参加し、職員の資質向上を図っていきます。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0	支援プログラムについては、詳しく作成し、本園のホームページで公表している。	今後も定期的にHPの更新を行い、閲覧する方が分かりやすいようにしていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15	0	定期的のアセスメントを行い、偏った見解にならないように注意して作成しています。	引き続きこどもと保護者のニーズをその都度確認し、支援計画を作成していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	作成する際には、保護者・児童発達支援管理責任者・担任・相談支援専門員などが集まり話し合いを行ったうえで検討している。	今後も、こどもに関わる職員全員で共通理解をしていながら検討を行っていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	1	計画は、職員間でも話し合い、施設管理責任者が最終の確認を行い、計画に沿った支援が行えるよう実施している。	今後も、一人一人の個別支援計画を検討し、共有しながら支援を進めていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14	1	日々の生活や療育の中で子どもの様子を観察・把握し支援を行っています。	職員で情報共有しながら支援について検討していきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0	計画作成の前に必ずガイドラインを読み直し、それぞれの項目について一人一人に合った支援内容を考えている。	今後も、こども達に合った支援内容を検討していきます。

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	0	毎月の職員会議や毎朝の職員打ち合わせなどで、活動内容について職員で話し合いを行っている。	今後も職員間で話し合う機会を多くもち、職員全員で検討していきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15	0	季節や子どもの興味関心に合わせて活動内容を考えています。	今後も園児の様子や季節・要望等に合わせ、活動プログラムの工夫をし、実施していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15	0	こどもの状況や保護者の意向などを組み合わせて活動内容を検討し支援計画を作成しています。	引き続き、活動内容を職員で検討してすすめていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	1	日々の療育は、各クラスごとに担任同士で話し合いを行い、行事などは、園全体で確認を行っています。	引き続き職員会議を行いながら、職員で共通理解して支援を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0	支援終了後に1日を振り返り、必要に応じて記録作成し、次の活動へとつなげるようにしています。	支援の振り返りを行いながら次への支援とつなげていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	支援終了後に、個々の記録を必ず残し、子ども達の変化や成長にも気付けるようにしながら改善につなげている。	日々の保育を大切にしながら、引き続き支援の検証・改善につなげていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	保護者と定期的にモニタリングを行い、計画の見直しも合わせて行っている。	今後も定期的にモニタリングを行いながら支援について検討していきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0	児童発達支援管理責任者や担任が参加し、普段の様子を詳しく伝えられるようにしている。	今後も会議などには参加し、支援について情報共有を行っています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0	児童発達支援連絡会を開催し、関係機関とは必要な時に連携できる体制を整えている。	個人情報に十分配慮した上で関係機関と連携体制を整えていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	高砂市の支援事業などに参加できるように情報提供を行ったり、交流保育を行っている。他園への移行時には、必要に応じて情報共有も行っている。	新たな環境にスムーズに移行できるように、保護者の同意を得た上で情報共有を行いながら相互理解を図っていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	それぞれの学校に、保護者の同意を得て書面での情報共有や面談、アフターフォローなどを行っている。	引き続き就園・就学先との情報共有を行っています。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	15	0	センター的機能研修を実施し、スキルアップを行うとともに、他機関とも連携会議などを通して情報共有し、体制を整えている。	他の地域の児童発達支援センターの視察を行う等、連携を密にし、様々な情報交換及び質の向上を目指した研修なども行っていきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15	0	外部講師を依頼して研修・助言を行ってもらったり、外部研修に積極的に参加し、質の向上を図っている。	今後も職員の資質向上を図り、研修の参加や自己啓発に努めます。今後も各支部に参加していきます。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	0	自立支援協議会や子ども部会など、定期的に地域の会議・研修に参加している。	今後も各支部や連絡会に参加していきます。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	15	0	不定期だが、地域のこども園の子ども達と交流ができるように、交流保育を実施している。	地域の園との連携もしていきながら、こども達が触れ合える機会を増やしていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0	保護者と毎日連絡ノートや電話や面談などを通して、こどもの状況を伝え合っている。	こども達の様子を保護者に分かりやすいように伝え、共通理解できるようにしていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	10月から12月に希望者を対象にペアレントトレーニングを実施している。	保護者の方が参加しやすい日程や時間帯を考えるなどしながら、希望される方が受講できるようにしていきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	入園説明会や契約時、保護者会などを通して、丁寧に説明を行い、必要があればその都度説明をしている。	引き続き保護者に分かりやすく説明を行います。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0	一人ひとりの面談の時間を十分にとり、意向が確認できるようにし、意向に沿った計画を作成している。	今後もしっかりとアセスメントの時間を設け、こどもや保護者の意向を確認するようにします。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	0	個別支援計画作成会議を必ず開き、同意を得るようにしている。	引き続き計画書に沿って説明を行い、保護者などの意見も聞きながら同意を得ています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	0	定期的なモニタリングだけでなく、普段から必要に応じて助言なども行っている。	保護者からの相談ごとに丁寧に対応し、助言などを行っています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	15	0	毎月保護者会を設けたり、行事等で交流する機会を設けている。	保護者会については、今後も定期的に行っていきます。またきょうだい支援については、交流する機会が少ないので、今後の検討課題としてきょうだい支援についても考えていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	いつでも相談ごとに対応できるようにしており、必要に応じて管理職も交えて話し合いを行っている。	苦情窓口を保護者などにわかりやすく伝え、申し入れがあった際は、迅速に対応できるように引き続きしていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15	0	『あしあとつうしん』やホームページ等を通して配信し、緊急時には安心メールを利用して配信している。	園の様子や配信したい事柄を現在よりもより頻繁に伝えるようにし、情報の配信を続けていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	職員に対しても取り扱いについて周知するとともに、保護者に同意を得た事柄については関係機関と情報共有している。	今後も個人情報の取り扱いについて職員に周知を行っていきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0	こどもや保護者にもわかりやすく情報発信している。	引き続きこども達や保護者の方との関わりを大切にしていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	2	年に2回オープンスクールを実施し、誰でも参加できるようにしている。	オープンスクール以外の活動内容についても検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0	毎月それぞれの訓練を実施し、またマニュアルに関して定期的に見直している。	定期的なマニュアルの検討をしていき、引き続き訓練なども行っていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	BCPを策定し、毎年見直しもしている。また避難訓練なども毎月行っている。	引き続きBCPの見直しを定期的に行い、検討しながら非常災害時に備えています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15	0	入園時にはこれまでの様子を聞いたり、病歴や薬についても必ず確認をとるようにしている。園医との連携も図っている。	保護者との情報共有を行いながら、こどもの状況を把握し、安全に保育・療育を行っています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	0	アレルギーに関しては、必ず医師の指示書及び保護者からの聞き取りを行い確認し、安全に対応できるようにしている。	今後も保護者との情報共有を行いながら、医師の指示書に従い、アレルギー対応を徹底していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	0	様々な場合を想定した訓練を行っており、また遊具の安全性については、毎週安全点検を行い、行政にもその結果を報告している。	今後も様々な訓練を実施し、安全管理を行って支援を行っていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15	0	保護者も一緒に訓練に参加する機会を設けたり、日々の連絡ノートやお便りなどでも伝え周知している。	引き続き安全に保育・療育ができるように勤めていながら、保護者との連携も取れるようにしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	1	ヒヤリハットの記録を残すだけでなく、定期的に職員間で情報共有したり、検討を行っている。	今後もヒヤリハットを含む事故発生時の報告を行い、職員間での情報共有を徹底し、環境整備を行ったり、支援方法を工夫するなど再発防止に努めます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	県や市で開催している虐待研修には必ず参加し、また研修後も職員と研修内容に関して振り返りを行い共有するようにしている。	今後も虐待防止の研修に積極的に参加し、また会議なども行いながら職員間で周知徹底を行います。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15	0	安全面を考慮したうえでやむを得ず行う場合は保護者に説明および同意を得ている。また児童発達支援計画にも記載している。	今後も身体拘束が必要な時は、保護者と十分話し合い、定期的に見直しを行っていきながら、職員間で共通理解していきます。	